

湯島聖堂漢文檢定

寺子屋編 論語

中級





子曰わく、

学まなびて時ときに之これを習ならう、亦また説よろこばしからずや。  
 朋とも有あり遠えん方ぼうより来きたる、亦また楽たのしからずや。

子曰、学而時習之、不亦説乎。  
 有朋自远方来、不亦楽乎。

(学がく而じ篇へん)

文章の意味

孔こう先生せんせいがおつしやいました。

「学まなんだことを、いつもおさらいを身みにつけていくのは、なんとうれしいことではないか。友ともだちが遠とほくからやつて来きて、ともに学まなびあうのは、なんとたのしいことではないか。」

語句の解説

- 「学」は、「まなぶ」と読み、ここでは「親おやや友ゆう人の言こと葉はをまねながら身みにつけ、先せん生せいや人ひとから教おしえてもらう」という意味。
- 「時」は、「ときに」と読み、「いつも」という意味。
- 「習」は、「ならう」と読み、「教おしえてもらったことをおさらいして、身みにつけていく」という意味。
- 「説」は、「よろこぶ」と読み、「(身みにつけていくことが)うれしい」という意味。

- 「朋」は、「とも」と読み、「友ともだち」という意味。
- 「遠方」は、「えんぼう」と読み、「遠とほいところ」という意味。
- 「不亦乎」は、「またくずや」と読み、「なんとくではないか。」と感かん動どうをあらわす。

## 12

子曰わく、

父ふ母ぼは唯ただ其その疾やまいを之これれ憂うれう。

子曰、父母唯其疾之憂。

(為い政せい篇へん)

文章の意味

孔こう先生せんせいがおつしやいました。

「お父とうさんとお母かあさんは、ただ自分じぶんの子こどもの病び気きのことだけを心しん配はいしている。」

\*「親おやは子こどもにいつも元げん気きでいてほしいと願ねがっている」という意味です。

語句の解説

- 「其疾」は、「そのやまい」と読み、ここでは「子こどもの病び気き」という意味。
- 「之」は言こと葉はの順しゆん序じよをかえ、「其その疾やまい」を強つよめるための語ご。
- ここでは「之これ」ではなく「之これ」と表ひょう記きする。
- 「憂」は、「うれう」と読み、「心しん配はいする」という意味。

13

子曰わく、

学まなびて思おもわざれば則すなわち罔くわし。

思おもいて学まなばざれば則すなわち殆あやうし。

子曰、学而不思則罔。思而不学則殆。

(為政篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。

「学まなぶだけで、自分じぶんでよく考かんえないと、本ほん当とうのことが、はつきりわからなくなるのだよ。(逆さかに) 自分じぶんで考かんえるだけで、教おしえを受けたり、学まなぶことをしないと、自分じぶん勝手がたな考かんえになつてしまふのだよ。」

\*学問がくもんには「学まなぶこと」と「考かんえること」の二ふたつが必要ひつようだと言いっています。

語句の解説

○「学」は、「まなびて」と読み、ここでは「先生せんせいからの教おしえを受けたり、書物しょぶつを読よんだりして、勉べん強きやうする」という意味。

○「思」は、「おもふ」と読み、「自分じぶんで考かんえる」という意味。

○「罔」は、「くらし」と読み、「本ほん当とうのことがはつきりわからない」という意味。

○「殆」は、「あやうし」と読み、「考かんえがたよつたり、自分じぶんだけの考かんえになつたりする」という意味。

14

子曰わく、

由ゆう、女なんじに之これを知しるを誨おしえんか。

之これを知しるを之これを知しると為なし、知しらざるを知しら

ずと為なす。

是これ知しるなり。

子曰、由、誨女知之乎。

知之為知之、不知為不知。

是知也。

(為政篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。

「由ゆうよ、おまえに知しるといふことを教おしえようか。知しっていることを知しっていると、知しらないことを知しらないとする。これが知しるといふことだ。」

\*知しらないことを知しっているふりをせず、すなおな気持ちで学まなぶことが大切たいせつだ、と言いっています。

語句の解説

○「由」は、「ゆう」と読み、孔子こうしの弟子でし。姓せいは仲ちゆう、名なは由ゆう、字あざなは子路しろう。

○「女」は、「なんじ」と読み、「君きみ」や「おまえ」という意味。

○「誨」は、「おしう」と読み、「教おしえる」という意味。

子曰わく、

唯だ仁者のみ能く人を好み、能く人を悪む。

子曰、唯仁者能好人、能恶人。

(里仁篇)

文章の意味

孔先生がおつしやいました。

「ただ思いやりのある人だけが、(公平な心があるから人を大切に思うことができるので) 善人をこのみ、悪人をにくむことができる。」

語句の解説

- 「仁者」は、「じんしゃ」と読み、「思いやりのある人」という意味。仁者はいつも公平な心を持っている人のことをいう。
- 「好人」は、「ひとをこのむ」と読み、「善人をこのむ」という意味。
- 「悪人」は、「ひとをにくむ」と読み、「悪人をにくむ」という意味。

子曰わく、

君子は終食の間も仁に違うこと無し。

子曰、君子無終食之間違仁。

(里仁篇)

文章の意味

孔先生がおつしやいました。

「君子はご飯を食べるくらいにわずかな間でも仁から離れないものだ。」

語句の解説

- \* 「君子」は、「人から尊敬されるようなりつばな人」のことで、勉強や学問ができるだけでなく、リーダーとして活躍できる人のことをいう。
- 「君子」は、「くんし」と読み、「立派な人物」という意味。
- 「終食之間」は、「しゅうしょくのかん」と読み、「食事をするほどの時間」「短い時間」という意味。

17

子曰わく、

父母在せば遠く遊ばず。遊ぶに必ず方有り。

子曰、父母在不遠遊。遊必有方。

(里仁篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。

「お父さんとお母さんが元気でいらつしやるときには、子どもは、遠くに行つて、心配をかけないようにしよう。出かけても必ず行き先をはつきりさせよう。」

語句の解説

- 「在」は、「います」と読み、「生きていらつしやる」という意味。
- 「遊」は、「あそぶ」と読み、「行く」と同じ意味で使われている。ここでは、「遠く遊ばず」となっているので、「遠くまで行って、父母に心配をかけてはいけない」と言っている。
- 「有方」は、「ほうあり」と読み、「行き先をはつきりさせる」という意味。

18

子夏曰わく、

商之を聞く。「死生命有り、富貴天に在り。」

子夏曰、商聞之矣。

「死生有命、富貴在天。」

(顔淵篇)

文章の意味

子夏が言いました。

「わたくし(商)は、『死ぬことも生きること、人の思いどおりにならないさだめがあり、金持ちになつたり王さまのような高い位につくことも運命による』と聞いています。」

語句の解説

- 「子夏」は、「しか」と読み、孔子の弟子。姓は卜、名は商、字は子夏。
- 「命」は、「めい」と読み、「運命」という意味。

樊遲仁を問う。

子曰わく、人を愛す。

樊遲問仁。子曰、愛人。

(顔淵篇)

文章の意味

樊遲が、仁について孔先生にたずねました。  
孔先生がおっしゃいました。  
「他の人を思いやることだよ。」

語句の解説

○「樊遲」は、「はんち」と読み、孔子の弟子。姓は樊、名は須、字は子遲。

子曰わく、

性は相近きなり。習いは相遠きなり。

子曰、性相近也。習相遠也。

(陽貨篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。  
「人が生まれつき持っているものには、それほど差がない。生まれた後の学習で、人によって大きく差がつくものなのだよ。」

語句の解説

○「性」は、「せい」と読み、「人に生まれつき備わっているもの」という意味。  
○「習」は、「ならい」と読み、「人が生まれた後で身につけるもの」という意味。

湯島聖堂漢文検定 テキスト

寺子屋編 論語 中級

編集 湯島聖堂漢文検定編集委員会

発行日 令和六年六月一日 初版発行

刊行 湯島聖堂漢文検定編集委員会

東京都文京区湯島一の四の二五 湯島聖堂構内

制作 朔工房

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は禁じます